

## 全国に広がるJET参加者の草の根国際交流

JETプログラムは草の根の国際交流を目的とするものです。参加者は、外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）などの活動以外にも、地域との交流を幅広く行うことが期待されています。今回は、こうした活動の一部について紹介します。

青森県つがる市のCIR、Dana Berte（デーナ・ベルテ）さん。アメリカ出身のデーナさんは、米軍関係者や姉妹都市との交流の際の通訳・翻訳、国際交流フェスティバルの企画・運営の他、市内の幼稚園や保育園を定期的に訪問し、子ども達に英会話や自らの故郷について紹介するなど多彩な活動を行っています。保育園の関係者からは、子ども達との触れあいを通し、「外国人との交流は、子ども達の心の垣根を低くし、小さいうちから多様な価値観や文化があることを肌で感じることができる」と好評です。

デーナさんの活躍は、これに留まりません。地元の立ネブタ祭りにも参加して太鼓を叩きます。また、趣味のジャズダンスを通して地元の人との交流を図ろうとジャズダンス教室を立ち上げました。心暖かい地域の人々の様々な行事への積極的な誘いに、参加という形で応えるデーナさんは「私はコミュニティの一員と感じている。青森はふるさと」と言います。

他方、JET参加者が力を合わせて独自に活動することもあります。「JET参加者の会（AJET）」では、「Smile Kids Japan」(<http://www.smilekidsjapan.org/>)というプログラムの中で児童養護施設を訪問し、子ども達との触れあいを楽しんでいます。その活動は、運動会やハロウィンパーティー、バーベキュー大会など多岐にわたります。また、英会話やJET参加者の出身国の文化の紹介も行っており、卵の殻の色塗りや、レイや卒業式用の帽子の製作などを行っています。

こうした取り組みを通じ、当初は見知らぬ外国人を前にして日本語を話すことすらためらっていた児童が、2年後にはすっかり打ち解けて基本的な表現とはいえ英会話を楽しむまでに成長したケースもあるといます。楽しみながら成長する子ども達の姿を見て、予想外の成功に驚いているJET参加者も少なくないようです。

これらの活動は、当該施設の先生や職員の方々の全面的なご協力があってこそのもですが、時には地元高校生が協力してくれることもあるようです。なお、このプロジェクトは、宮城県、東京都、山梨県、山口県から始まり、現在では12の都県に拡大したといます。

このように、創意工夫により全国各地で草の根の国際交流を行っているJET参加者は多くいます。全国の自治体の皆さん、心の垣根を低くして、あなたの隣人と交流を楽しんでみてはいかがでしょうか。まずは小さな一歩から。